令和８年度９月号　令和８年９月１日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校長　佐伯　孝司

https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1310240

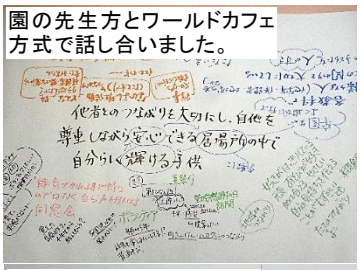
架け橋プログラム・交流活動から学ぶ　　校長　佐伯　孝司





お祭りで園児とふれあう児童

夏休みのこども園のお祭りに、本校の児童もたくさん参加していました。それも、運営のお手伝いで、笑顔で園児を楽しませていました。このように、卒園後も上原の地域で活躍する小学生の姿があります。夏季休業中、本校の教員も、校区の幼稚園、保育園、こども園を訪問し、園児とふれあい、園の保育について先生方とお話をしてきました。訪問して本校教員が学んだことは、主に「園児は遊びを通して主体的・協働的に学んでいる」「自立に向けた力を日々培っている」「環境づくりや先生の支援が園児の活動を生み出している」ということです。園での遊びや様々な活動が、学校での学びにつながっていることを感じました。



園の先生方とワールドカフェ方式で話し合いました。



本校の壁や階段のドキュメンテーション(掲示)も、園から学び、工夫しました。

渋谷区では、園から学校への円滑な接続をめざし、小学校区ごとに園と連携した取組「シブヤ幼保小架け橋プログラム」を進めています。５月、近隣の６園の園長先生方と話合いの機会をもちました。児童が園の行事等に参加・協力していること、園も学校も地域の方々のご協力による様々な活動を実現できていることなどが共有され、人との温かいつながりが大切にされている本校区の特長を生かした連携を進めていくことで合意しました。その翌週、薫る風・上原こども園に本校区の６園と本校の教員が集まり、今後の連携の在り方や育てたい子供像について話し合い、保育の様子を参観し、専門家の講話を聞く研修を行いました。７月には、再び園長先生方と話し合い、冒頭に述べた夏休み中の教員の訪問を計画しました。また、後期からの交流の方針等についても話し合いました。

園児との交流は、学校の学習活動にも生きています。これまでにも、児童が園を訪問してシブヤ未来科等の学習活動への協力を呼び掛けることがありました。園児にも分かるように伝えるにはどうしたらよいか、その前に興味をもってもらえなければ聞いてくれないのではないかなどと考え、工夫して学習活動をつくっています。児童は、園児が喜んでくれる姿を見て、学んできたこと、取り組んできたことの価値を自覚したり、新たな課題に気付いたりします。



シブヤ未来科の活動への協力を園で呼び掛け

このように、相手意識や目的意識が一層明確になることで学習過程を自ら工夫し、取組の成果や学びの価値を自覚する機会をもつことができています。今後も継続したいと思います。

これからも、園児だけではなく、中学生、高齢者、商店や企業の方々、校内の異学年児童などの多様な他者との交流が、自他の尊重や児童の主体的な活動につながるように、学びをつくっていきたいと考えています。



中学校のオンライン朝会に参加



校内の他学年児童も招いての学習活動